

# 市政

1  
January 2016  
vol.65

## 特集 大学との連携で進める 地域活性化

市政ルポ  
大野城市／悠久の歴史を共働でつなぐ  
愛郷とにぎわいのまちづくり



全国市長会

# 市政

2016 January  
CITY GOVERNMENT vol.65

## 特集 大学との連携で進める地域活性化

- 年頭のごあいさつ ..... 全国市長会会長 岡田市長 ● 森 民夫 ..... 21
- 平成28年総務大臣年頭所感 ..... 総務大臣 ● 高市早苗 ..... 6
- 大学との連携による地域活性化 ..... 高橋経大大学地域政策部部長 ● 大宮 登 ..... 22
- 外部との融合による地域力向上 ..... 常陸太田市市長 ● 大久保太一 ..... 25
- 地域と大学が連携した継続的な取り組み ..... 都留市市長 ● 堀内晋久 ..... 28
- 都留市版生涯活躍のまち(CCRC)構想 ..... 都留市市長 ● 大久保 貴 ..... 31
- 「彦根デザイン・カレッジ」の取り組みについて ..... 彦根市市長 ● 齊藤守史 ..... 34
- 人と産業が集まり成長するまち ..... 飯塚市長 ● 齊藤守史 ..... 37
- 一産学官連携による新産業創出 ..... 特別講演・労働供給制約の時代に ..... 大野城市市長 ● 井本宗司 ..... 10
- 「つとておき」美しい都市の景観 ..... 川料(金沢)能代市長 ● 秋川泉 ..... 3
- 新連載「つとておき」の森田 Smart Life ..... 最前の大友昌弘 ● T.F.J. ..... 3

### 市政ルポ



大野城市 (福岡県)  
悠久の歴史を共働でつなぐ  
愛郷とにぎわいのまちづくり  
大野城市市長 ● 井本宗司

JANUARY 2016 市政 18

## C O N T E N T S

■市長選後記 ..... 81	■市長選後記 ..... 80	■市長選後記 ..... 70	■市長選後記 ..... 62	■市長選後記 ..... 58	■市長選後記 ..... 54	■市長選後記 ..... 46	■市長選後記 ..... 44	■市長選後記 ..... 42	■市長選後記 ..... 11
-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------

■都市のリスクマネジメント ..... 60	■全国市長会の動き—Mayers' Action ..... 72	■平成28年度における東日本大震災に係る被災市町村に対する人的支援について(後編) ..... 79	■これぞ！イチャオシ(奈良市) ..... 80
------------------------	-----------------------------------	--	--------------------------

## 特集 大学との連携で進める 地域活性化

地域活性化、地方創生の一翼を担うパートナーとして大学が近年、重要性を増しています。文部科学省は、自治体と連携した教育・研究、地域貢献を進める大学を支援する「地(知)の拠点整備事業」(COC事業)を推進。総務省も、大学生と大学教員が地域の現場に入り、地域の課題解決や地域づくりに継続的に取り組んでいます。

- 寄稿1 大学との連携による地域活性化  
高橋経大大学地域政策部部長 大宮 登
- 寄稿2 外部との融合による地域力向上  
地域と大学が連携した継続的な取り組み  
常陸太田市市長 大久保太一
- 寄稿3 都留市版生涯活躍のまち(CCRC)構想  
構想のキーポイントは「大学コンソーシアムつる」  
都留市市長 堀内晋久
- 寄稿4 「彦根デザイン・カレッジ」の  
取り組みについて  
彦根市市長 大久保 貴
- 寄稿5 人と産業が集まり成長するまち  
一産学官連携による新産業創出  
飯塚市長 齊藤守史



# 外部との融合による地域力向上 地域と大学が連携した継続的な取り組み

常陸太田市長（茨城県）

大久保太一



## はじめに

常陸太田市は茨城県北部に位置し、北は福島県に接している。本市の総面積は371.99km<sup>2</sup>で、茨城県全体の6.1%を占め、南北40km、東西15kmの広がりを持ち茨城県内で一番広大な市となっている。豊かな自然環境と古くから続く歴史と文化にあふれた地域であり、平安時代末期から約470年間は、県北地方一帯を支配した、常陸の豪族、佐竹氏の本拠地として繁栄し、江戸時代に入ると、水戸黄門こと徳川光圀公が晩年を過ごした西山御殿跡（西山荘・国の文化審議会において史跡及び名勝に指定するよう答申）などがあり、市内各所に歴史や文化の足跡をたどることができる史跡等が数多く残されている。

現在の本市は、平成16年12月に旧金砂郷町、旧水府村、旧里美村と合併した。本市が抱える最大の課題は少子化・人口減少対策であり、合併時6万人を超えていた人口が、

5万2049人（平成27年10月1日現在）にまで減少している。本市は、合併以降、合併効果を最大限に生



農家を「講師」にした学生による畑作業

かしながら、新市の一体感の醸成を図り、住民福祉の一層の向上を目指すため、平成19年3月「常陸太田市第5次総合計画」を策定した。この計画では、市民と行政が一緒になって考え行動する「市民協働によるまちづくり」と、市の恵まれた自然環境や風景・景観、歴史文化などの地域資源を活用する「エコミュージアム活動によるまちづくり」を市政運営の基本として位置付け、地域活性化およびその源泉である地域力の向上に取り組んできた。

近年、国においても、地域活性化の源泉としての地域力（特に地域資源力と人材力）の維持・向上を後押しする施策が多数展開されてきており、本市においても、これまでの地域力向上の取り組みを強化し、発展させるという観点から「地域おこし協力隊」や「域学連携地域づくり実証研究事業」などの活用により活性化に取り組んでいるところである。

## これまでの大学連携の取り組みと課題

本市では、専門的な知識を有する大学の参



市内飲食店が考案したメニューに材料を提供した「かぼちゃフェス。」

画を得ながら、市民協働によるまちづくりを推進すべく、県の内外を問わず、積極的に大学との連携を進めてきた。

とりわけ、茨城大学、茨城キリスト教大学、常磐大学の県内の近隣大学とは、市エコマニージャム活動への学生の参加や地域団体等と連携したイベントの開催または開催支援等、積極的に連携して取り組んできたところである。

しかし、茨城大学人文学部、茨城キリスト教大学、常磐大学とは連携協定を締結しているものの、各種活動が大学のカリキュ

ラムとしては位置付けられておらず、単位の取得にはつながらないことから、あくまで学生の自主性に委ねる形の参加となり、また、活動ごとにその都度学生に募集をかけるなど単発での連携となることが多く、継続的な事業の実施が課題となっていたところである。

### 「域学連携地域づくり実証研究事業」導入の経緯と本事業の特徴

このような状況の中、平成24年度に総務省において「域学連携地域づくり実証研究事業」の創設をきっかけとして、茨城大学からの提案により、本市の里美地域をフィールドとした、大学において単位化を伴う、持続可能なカリキュラムの構築を目指し、実証研究に取り組むこととなった。

本事業の特徴としては、茨城大学、茨城キリスト教大学および常磐大学の学生が、継続的に里美地域を訪問し、現地体験学習、地域資源の調査研究、課題論文の作成等を行うことにより、大学の単位が認定されるプログラムの開発を行うこととし、単位化を図ったことにある。

また、このプログラムの受け入れにあたり、当初は地域おこし協力隊との連携を図り、地域おこし協力隊が当該地域で感じた地域の魅力を授業内容に組み入れることで、学生にとっても魅力的なプログラムの構築がなされている。

### 具体的な活動

具体的には里美地区において、里美地区の里川町で採れる「里川カボチャ」を使った生産ブランド化への取り組みを中心に行った。「里川カボチャ」は常陸太田市の里川町で採れる在来作物で、近年まで他品種との交雑が進み、本来の食感や風味、甘味、色などが失われつつあった。それらを地域住民の手で本来の「里川カボチャ」の姿を取り戻す取り組みが行われていたものである。そうした地域に学生が定期的に訪れ、地域住民と交流しながら、作物の生育から商品化まで一貫した取り組みをすることで、地域住民との絆が生まれ、また学生のコミュニケーション力や就業力の向上にも一役買っている。

また学生と生産者が一体となった活動により、市内の飲食店が地場産農産物を使い、オリジナルメニューを提供する「ファーム&キッチン」に食材として活用され、さらには市内で行われる「汁椀カップ」への出展や水戸市の水戸まちなかフェスティバルや大学文化祭、東京・六本木ヒルズの「いばらき市」での販売など市内はもとより市外でも販売・PRが行われている。

これらの活動においては、多数の地元住民が参加しての活動報告会が行われているほか、茨城県立水戸農業高等学校の生徒が一部のフィールドワークに参加するなど広がりを見せている。



地域の方と学生も参加した収穫祭

平成24年度においては、実証研究として取り組んだが、平成25年度より茨城大学の正課授業「プロジェクト実習」の一部に位置付けられ、茨城キリスト教大学および常磐大学でも履修が可能なカリキュラムとなり、単位化が可能となっている。

### 期待される地域へのメリット

本事業における地域へのメリットは、ワカモノ、ヨソモノである学生の視点から新たな

魅力が発見され、また、各種の地域資源が研究の対象となり、保存されることで、地域資源力の向上が期待される。学生が地域に入り、地域住民と関わることで、地域住民自らが地域資源を見つめなおす契機ともなる。

また、地域内において、調査を進めるにあたり、地域の集落のリーダーや年長者などを対象に聞き取り調査を行う機会も多いと考えられ、そうした取り組みの中で貴重な知識や経験を持つ地域人材の発掘につながるなど、地域人材力の向上にも寄与するものと考えられる。

このようにプログラムの開発・実施に取り組むことは、地域力の向上が図られるとともに、それらの地域力を活用した交流人口の拡大による地域活性化にも貢献するなど、持続可能な地域社会の構築にも大きく貢献するものである。加えて、里美地域が取り組みのモデル地域として確立されれば、同じく地域力の低下が懸念されている金砂郷地域や水府地域への波及も期待されることである。

### 大学および学生へのメリット

現在、大学教育においては、就業時に即戦力となり得る「就業力」の育成が求められている。「就業力」とは、学士課程教育で培われた学問智を実社会において実際に使っていくことができる能力である。この能力の育成には、これまでのような大学の講義室内で行わ

れる一方的な知識獲得型の講義では不十分であり、プロジェクト実習のような、実社会での体験を通じた学習に重きを置いたプログラムを開発することが必要とされており、本事業の実施は、学生のキャリア教育を担う大学および学生の双方にとって、大きなメリットになるものと考えている。

### おわりに

本市では、少子化・人口減少に対処するため、「子育て上手 常陸太田」をキャッチフレーズに新婚家庭実助成や住宅取得時の助成、保育園・幼稚園の保育料の軽減、高校生までの医療費助成など、子育て世帯への経済的支援や妊娠から出産・育児までの切れ目のない支援を中心に対策を講じてきている。そうした取り組みとともに、人口減少の進行に伴う地域の活力低下に対して、地域おこし協力隊や域学連携などの地域力の維持・向上を狙ったさまざまな取り組みを進めてきているところである。地域力向上の取り組みは長丁場であり、今求められていることは、本市がこれまで独自に積み重ねてきた地域力向上の取り組みと域学連携や地域おこし協力隊などの取り組みを融合し、深化させ、長期的に定着を図ることである。地域力向上の新たな取り組みについて今後もその可能性を模索していきたい。